

学習指導要領改訂中教審部会「審議まとめ」

教科時数はどうなるのか？

小学校

低学年で2時間、中・高学年で1時間増

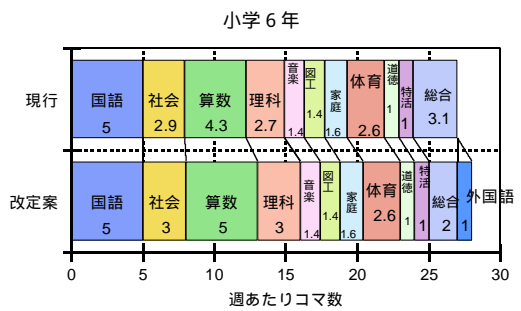
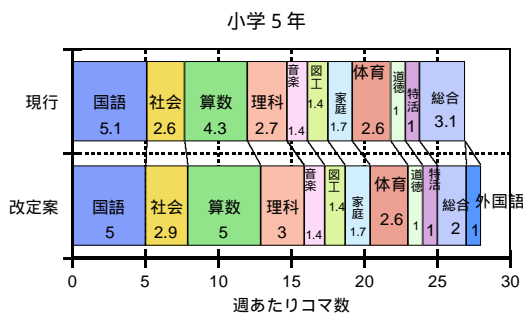
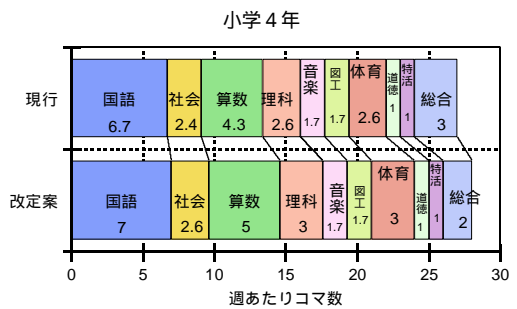
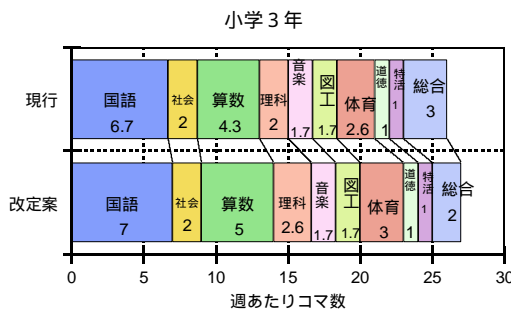
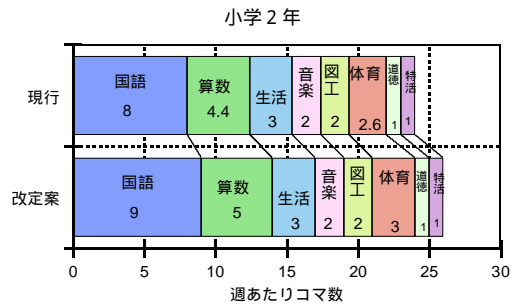
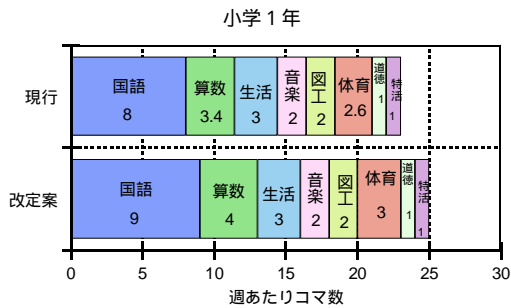
低学年で国語を増やし、全学年で算数を増やす

社会、理科は微増

体育は低、中学年で微増

高学年に外国語1時間

総合の時間は減る



中学校

全学年1時間増

1, 3年で数学が1時間増

2年で国語が1時間増

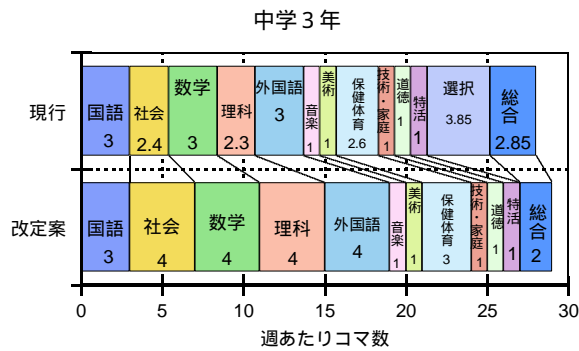
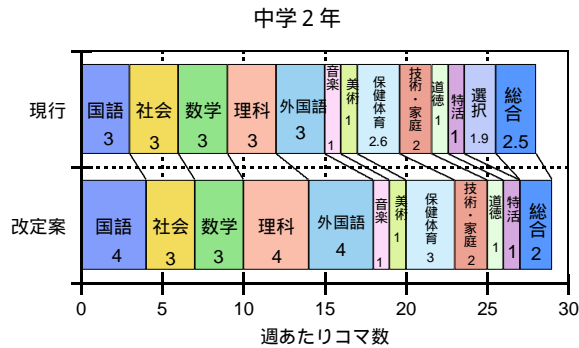
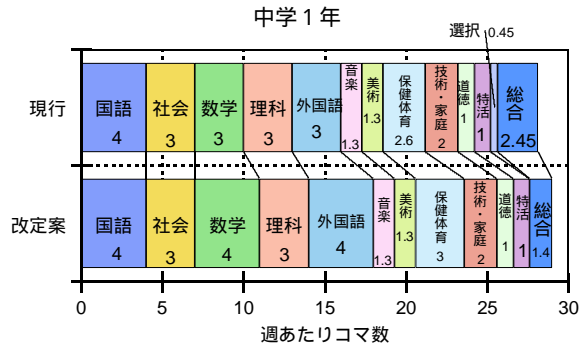
全学年で英語が1時間増

全学年で保健体育が0.4時間増

選択の時間がなくなる

総合の時間は減る

3年の社会が増える



改善点と問題点

- ・前回の改定で削減されたものが復活した。
例) 2次方程式の解の公式(数学)、生物の進化(中学理科)など
- ・総合的な学習の時間、選択が縮減される。
特に中学校ではどちらも「荒れの素」にもなっていただけに歓迎の声が聞こえてきそう。
- ・小学校での外国語(英語)活動の時間を新設。
かえって英語嫌いが増えないか、心配
- ・中学校の体育で武道が必修に。
- ・習熟度別授業など、競争と格差を広げ、子どもを選別しようとする施策を強調している。
- ・「家庭の責任」を強調
- ・総授業時数が増えたことによるいっそうの詰め込みと格差の拡大
- ・沖縄集団自決問題にノーコメント
- ・愛国心の押しつけ、学校生活での子どもの人権尊重の視点を欠く「道徳」
- ・教職員の定数増や教科書・学校図書館の充実に言及
- ・言語活動充実のため、あらゆる教科でレポート、記録・報告、発表、議論などを重視するよう指示
- ・教師の指導内容、指導法までこと細かく指示
- ・重点指導事項例を示し、それらの事項を子どもたちが習得したかどうかを学テで検証